

ボランティア養成講座

1. 事業の概要

○ 事業の趣旨

子供たちの体験活動に関わる上で必要とされる野外活動のスキルや安全管理、体験活動の意義や青少年教育施設の取組の実際について、実習や講義を通して学ぶことにより、ボランティアとして子供たちとともに活動し、自然体験活動の楽しさや喜びを伝えることができる青年の育成を図る。

○ 実施期間

平成30年5月12日(土)～平成30年5月13日(日) 1泊2日

○ 対象者・参加者数(人数/定員)

当施設の法人ボランティアとして活動する意思のある者、小学校等が実施する自然体験活動を支援する意思のある高校生以上の者。(57名/30名程度)

○ 活動プログラム

2. 活動の様子

5月12日(土)		5月13日(日)	
11:30	ガイダンス		つどい・朝食・点検
12:00	昼食	9:00	普通救命講習 I (安全管理)
12:45	アイスブレイク (ボランティア活動の技術)		
13:15	青少年教育における体験活動 (青少年教育)	12:00	昼食
14:45	ボランティア活動の意義 (ボランティア活動の意義)	13:00	青少年教育施設の現状と運営(現状と運営)
15:45	自然体験活動の技術 野外炊事 (ボランティア活動の技術)	14:00	法人ボランティアの登録制度 (登録制度の説明)
18:45	入浴	15:00	解散
19:30	野外炊事から学ぶボランティアの役割 (ボランティア活動の意義・ボランティア活動の技術)		
20:30	青少年教育施設におけるボランティア (ボランティアの活動内容の理解)		

5月12日(土) < 1日目 >



実技「アイスブレイク」



講義「青少年教育における体験活動」



講義「ボランティア活動の意義」



実技「自然体験活動の技術 野外炊事」



講義「野外炊事から学ぶボランティアの役割」



講義「青少年教育施設におけるボランティア」

1日目は「アイスブレイク」や「青少年教育における体験活動」「ボランティア活動の意義」「自然体験活動の技術 野外炊事」「野外炊事から学ぶボランティアの役割」「青少年教育施設におけるボランティア」の講義と実習を実施した。講義「ボランティア活動の意義」では、グループワークで、自身のボランティア経験を共有し、ボランティア活動の多様性を再認識するとともに、教育ボランティアに対し、自身の成長を期待する記述が多く見られた。

また野外炊事では、〈材料からメニューを考えて調理する〉が課題として与えられ、各グループで協力し、メニューを考えたり、調理方法を教え合っていた。振り返りでは、今回の野外炊事でのねらいを伝え、ボランティアの関わりとしてプログラムを成立させること以上に、ねらいに近づけるための関わり方が重要であることを自身の体験を通して確認した。

5月13日（日）＜2日目＞



実技「普通救命講習Ⅰ」



講義「青少年教育施設の現状と運営」

2日目は、「普通救命講習Ⅰ」「青少年教育施設の現状と運営」の講義と実習を実施した。安全管理のスキルを身につけるために、「普通救命講習Ⅰ」を実施した。事故事例・判例を紹介し、安全管理の意識を高めることができた。

また「青少年教育施設の現状と運営」では、当施設及び機構での取り組みを紹介し、してみたい事業をグループで共有し、法人ボランティアへの期待が高まる内容となった。

3. 事業の成果と課題

○ 参加者の感想

- ・一つ一つの指導がわかりやすかった。
- ・交流することが多かった。
- ・ボランティアについて定義を理解できた。
- ・これからは、自分達が子供たちに教える側になるのだということをしっかり理解できる養成講座だった。

○ 事業の成果

- ・ボランティアの育成ビジョンのもと、養成講座の位置づけがしっかりとして、ボランティアに伝えるべき内容の整理や、講義の流れがスムーズに進めることができた。
- ・参加者同士の交流も多くとり仲間意識が生まれ、ボランティア登録した後に、事業に参加しやすい雰囲気を作ることができた。

○ 事業の課題

- ・1泊2日で13時間のカリキュラムを実施するとなると、タイトなタイムスケジュールになり、参加者に負担をかけてしまう。しかし、2泊3日の日程で実施できる日取りは、年度初めの時期ではなく、教育事業を進めていくうえで、ボランティアのサポートが不可欠なため、やむなく5月の週末の1泊2日で実施している。プログラムを整理し、参加者に負担が少なく、質のよいプログラムを提供できるよう、運営の改善、内容の検討を行っていきたい。